



# 新入生諸君

ものづくり大学  
学長 赤松 明

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。ものづくり大学は皆さんの入学を心から歓迎します。さて、ものづくり大学は、本学の名誉総長で我が国を代表する哲学者梅原猛先生によって命名されました。ものづくりは縄文の時代から、わが国の誇りと言える優れた伝統であり、古来の大和（やまと）言葉は濁点をふらないことから、現代日本語の慣用表記とは異なる「ものづくり」を用いた大学名が付けられています。また、英語名 Institute of Technologistsは、社会生態学者で2010年に大ヒットした「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」で注目を集めた故ピーター・F・ドラッカー先生によって名づけられました。ここで言う「テクノロジスト」とは、単に理論がわかるだけでなく、高度な技術の腕も併せ持っている人のことを言います。ものづくり大学はこのテクノロジストを育成することを目的としています。

そのために、実学を重視し、従来のように理論から入るのではなく、まず現実のものに接し、ものの命を体感、体得し、そこから自ら問題を発見し、自らその解決方法を見出し、自ら企画して自ら製作するというプロセスを大切にしています。そのために、従来の理工科系大学とは全く発想を変え、理論を学ぶだけでなく、ものづくりに直結する実技や実務も学ばなければなりません。実技・実務に関わる授業には、プロの技術者及び技能者を多数お迎えし指導して頂いており、我が国を代表する匠（たくみ）の技に接することができます。

ものづくり大学は、2001年に創立し今年で17年目を迎える新しい大学です。そして、我が国のものづくりを変えようという使命と目的で16年前に設立された従前にはない新しい大学です。そして、学部生は4年後、大学院性は2年後、単に理論がわかるだけでなく、高度な技術の腕も併せ持っているテクノロジストとして、将来に希望を持って卒業していくことと確信しています。

ところで私は、1974年、職業訓練大学校を卒業してすぐ助手として大学校に残り、これから何をどうすれば良いのか悶々としていた時代がありました。30歳前後だったと思いますが、家具の強度性能について興味を持ち、特に家具部材の接合に多用されていた木ねじ接合部の強度性能について研究を始めました。この研究は、余りにも地味な研究だったからでしょうか、誰もテーマにしない領域でした。そのため先行研究が極めて少なく、実験計画はもとより、実験用治具や実験用木ねじの制作まで私自身で行いました。そして、木材に、木ねじをねじ込んでは壊し、ねじ込んでは壊すという事を大いに楽しみながら10年ほど続け、その甲斐あってか、博士（農学）東京大学の学位を取得することができました。この30歳代のはじめの頃、やっと自分のやりたいことが何なのかを意識することができ、家具の強度性能だけでなく、家具を人間工学的、感性工学的に捉えて人間と家具との関係を約20年間研究していました。そして、2006年に、ものづくり大学の教員公募に応募し、身を本学に移し今に至っています。このように40有余年の長きに亘る教員生活を過ごして

いますが、いまだに、難しい問題に直面したとき挫折してしまいそうになります。しかし、若いときの約10年間で幾度となく難題に直面したときの挫折感、その問題を解決したときの達成感を今でも覚えています。この挫折感と達成感が、今の自分を支えているように思えてなりません。

新入生の皆さんは、これから、辛いことや楽しいことを一杯経験することでしょう。しかし、辛いからとすぐあきらめないで、辛いことを楽しみに変えてあらゆる事に挑戦してみてください。挑戦できるのは、若い皆さんに与えられた特権です。大いに悩み、大いに楽しんで下さい。

さて、皆さん方がものづくり大学で学ぶための心の準備について私の考えを、お話しすることにします。皆さんは、ものづくり大学の学生として何を目指して勉強を始めるのでしょうか。またどのような専門を身につけようと思っているのでしょうか。多くの皆さんは、まだ、はっきりとした答えは持っていないと思います。そのような皆さんには、是非、本学の構内に掲示されています「大学の基本理念」を読んでみてください。そこには、6つの基本理念が掲載されています。これらの、基本理念を理解し、皆さんは、「科学・技術・技能の力で新しいものづくり社会を築き、皆が楽しく生活できる社会を作り上げる」ということを意識して学び、そこから各自の目標や夢を描いて頂きたいと思います。そして、その目標や夢を叶えるために、今、何をしなければならないかを自ら考え、自ら積極的に挑戦できる強い意志を持ち続けてほしいと思います。これから始まる、大学生としての毎日と、今までの高校生としての毎日と最も異なるのは、何をすることも、自分で判断し、自分で実行しなければならないことです。高校時代は、多くは先生やご両親から、これをしなさい、これをしてはいけませんと指示され、その指示を待って実行すればよかったのですが、これからは、そうはいきません。

ものづくり大学でのカリキュラムは、多様性に富んでいます。1年生から4年生へと進級するにつれて、徐々に希望する分野を明確にしていき、将来の目標や夢を実現するために必要な専門力と人間力を身につける必要があります。そのためには、夜を徹してでも自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりできる仲間を作ることです。切磋琢磨する同期の仲間、そして、先輩や先生、さらに課外活動などで生活を共にする仲間などです。この仲間とのコミュニケーションが、大学生活で大きな役目を果たすはずで、そして、この仲間が将来の自分と最も関わりのある人達になります。自分の夢や目標がわからなくなったとき、新しい道を、この仲間が教えてくれることでしょう。

皆さんには、将来の自分の姿を描き、その目標達成のために常に挑戦する志を持ってほしいと思います。そのような気概を持つ皆さんを、ものづくり大学は、全力で応援します。さあ、今日からものづくり大学での生活が始まります。先ほど申し上げましたように大学の学びにおいては、積極的に学ぶ姿勢を持ち続けることがもっとも重要です。大学は、教えてもらうところではなく、自ら学び考えて夢に向かうところです。この気持ちを忘れずに、1日も早く良い仲間を作り、ともに学び、語り合い、充実した毎日を過ごして欲しいと願っています。

平成29年4月12日